

平成15年度独立行政法人国立美術館年度計画

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の一層の効率化を進めるため、平成14年度に引き続き、次のような措置を講ずる。

平成13年度に人事記録、給与計算等の人事事務、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等の共済事務について一元化したのに続き、平成14年度には情報公開事務の一元化を実施して効率化に努めてきたが、平成15年度においてはそれら以外の業務の一元化を検討し、さらに業務の効率化を図る。

平成14年度に、各館の所有する文書情報の発信を一括して行うシステムを導入し、情報公開制度への対応に取り組んだ。平成15年度はその円滑な実施に努める。

節水、節電による省エネルギーの推進、配付資料等の両面コピー化によりコピー用紙及び廃棄物の減量化推進、古紙の再利用によるリサイクル及びLANの活用によるペーパーレス化をさらに推進する。

講堂・セミナー室等のさらに積極的な活用を図る。

平成14年度に引き続き会場管理業務、設備管理業務、清掃業務等の外部委託を積極的に実施し、さらに業務運営の効率化を図るとともに国立国際美術館においては、平成15年度から新たに郵便発送業務を外部委託する。設備備品等の購入及び会場管理業務等の外部委託業務のうち、一般競争入札に相応しい業務については、すでに一般競争入札を実施しているところであるが、平成15年度においては、設備備品等の購入においてさらに積極的に推進する。

2 外部の有識者による評価及び職員の意識改善

運営委員会、評議員会及び外部評価委員会による業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

会計・人事等の研修を通じて職員の意識改革と資質の向上を図り、併せて組織の活性化を図る。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 収集・保管

(1) 中期計画に基づき、次のとおり美術作品等を購入する。

(東京国立近代美術館)

< 本館・工芸館 >

近代日本美術史上の里程標となる名作の中から未収集作品を購入する。

明治、大正、昭和初期の工芸作品を拡充する。

近代デザインの形成期である 19 世紀後半から 1930 年代頃までのデザイン作品を拡充する。

< フィルムセンター >

ロシア所在の戦前の日本映画、過去 3 年間に逝去した映画人の代表作及び企画上映に必要となる作品を収集する。

散逸が懸念される映画フィルムや劣化が著しいために緊急に修復を必要とする映画フィルムを優先的に収集する。

デジタル媒体を活用して映画フィルムの複製及び修復・復元を図る。

(京都国立近代美術館)

我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で主として美術・工芸について、近代日本美術史の骨格を形成する代表作及び各時期において重要な位置を占める記念的作品、近代美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集すると共に、優れた写真作品の収集にも努める。また、併せて各ジャンルの欠落部分を補い所蔵作品を充実させる。

当館が京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を図る。

(国立西洋美術館)

中世末期から 20 世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように次のとおり収集する。

西洋美術における重要な流れを示し得る近世ヨーロッパ絵画等の収集
各時代を展望し得るヨーロッパ版画の系統的収集

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため主として次のとおり収集する。

1945 年以降の日本の現代美術の系統的収集

1945 年以降の欧米の現代美術の系統的収集

国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集

(2) 寄贈・寄託品の積極的な受け入れ及び活用を図る。

(3) 24 時間空調等による作品の保存管理及び館内各所の環境モニターを実施する。

(4) 緊急に必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修復を行う。

(5) 国内外の美術館等に対し、修復保存に関する協力と普及の推進を図る。

2 公衆への観覧

(1) 中期計画に基づき各館において展覧会や企画上映等を次のとおり実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館> (展覧会名称は仮称のものを含む。)

[展覧会]

「青木繁と近代日本のロマンティシズム」

期間：平成15年3月25日(火)～5月11日(日)

(43日間(うち平成15年度38日間))

共催：日本経済新聞社

目標入場者数：6万9千人(うち平成15年度中は、6万1千人。)

特集展示「牛腸茂雄」展

期間：平成15年5月24日(土)～7月21日(月)(51日間)

会場：ギャラリー4

目標入場者数：1万1千人

「地平線の夢」

期間：平成15年6月3日(火)～7月21日(月)(43日間)

目標入場者数：1万9千人

「野見山暁治」展

期間：平成15年8月12日(火)～10月5日(日)(48日間)

共催：日本経済新聞社

目標入場者数：2万4千人

「旅 - 越境のレッスン」

期間：平成15年10月28日(火)～12月21日(日)(48日間)

目標入場者数：1万7千人

特集展示「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」

期間：平成15年10月28日(火)～12月21日(日)(48日間)

会場：ギャラリー4

目標入場者数：1万人

「ヨハネス・イッテン - 造形芸術への道」

期間：平成16年1月14日(水)～2月29日(日)(41日間)

共催：京都国立近代美術館

目標入場者数：1万5千人

本館常設展「近代日本の美術」展他 5回陳列替え

目標入場者数：9万7千人

目標入場者数計：25万4千人

< 工芸館 > (展覧会名称は仮称のものを含む。)

「今日の人形芸術 - 想念の造形」展

期間：平成15年3月28日(金)～5月18日(日)

(45日間(うち平成15年度42日間))

共催：TBS

目標入場者数：1万7千人(うち平成15年度中は、1万4千人。)

「ライト・ブラック：オーストラリア現代工芸3人展」

期間：平成15年5月27日(火)～6月29日(日)(30日間)

同時開催：所蔵品展「近代日本の工芸」

目標入場者数：4千人

「三代藍堂 宮田宏平展」

期間：平成15年7月8日(火)～9月7日(日)(54日間)

同時開催：所蔵品展「近代日本の工芸」

目標入場者数：7千人

「現代の木工家具」

期間：平成15年9月20日(土)～11月30日(日)(62日間)

目標入場者数：9千人

工芸館常設展「近代日本の工芸」展他 3回陳列替え

目標入場者数：2万2千人

目標入場者数計：5万6千人

本館・工芸館目標入場者総数：31万人

< フィルムセンター > (展覧会名称は仮称のものを含む。)

[上映会]

「逝ける映画人を偲んで」(2)

期間：平成15年4月8日(火)～5月18日(日)(36日間)

目標入場者数：1万3千人

「発掘された映画たち 2003」

期間：平成15年5月27日(火)～7月13日(日)(42日間)

目標入場者数：1万2千5百人

「市川崑監督特集」

期間：平成15年7月22日(火)～9月28日(日)(60日間)

目標入場者数：1万7千5百人

「文化財としての記録映画 - 戦後日本の短篇映像 - 」

期間：平成15年9月16日(火)～9月28日(日)(12日間)

共催：(社)映像文化製作者連盟

目標入場者数：2千人

日本におけるトルコ年「トルコ映画の現在」

期間：平成15年10月3日(金)～10月19日(日)(15日間)

共催：在日トルコ共和国大使館、文化庁

目標入場者数：3千人

「カール・ドライヤー監督特集」

期間：平成15年10月28日(火)～11月9日(日)(12日間)

共催：株式会社朝日新聞社、(財)国際文化交流推進協会

目標入場者数：3千5百人

「生誕100周年記念 小津安二郎監督特集」

期間：平成15年11月19日(水)～平成16年1月25日(日)
(52日間)

共催：松竹株式会社

目標入場者数：2万人

「日本の映画カメラマン」

期間：平成16年2月3日(火)～3月26日(金)(46日間)

目標入場者数：1万人

目標入場者数計：8万1千5百人

[展覧会]

「展覧会 映画遺産」(1)

期間：平成15年4月8日(火)～10月19日(日)(153日間)

目標入場者数：5千人

「展覧会 映画遺産」(2)

期間：平成15年11月19日(水)～平成16年3月28日(日)
(100日間)

目標入場者数：3千人

目標入場者数計：8万9千5百人

(京都国立近代美術館)

「知られざる西アフリカの美術展」

期間：平成15年4月4日(金)～5月11日(日)(33日間)

目標入場者数：1万7千人

東松照明の写真1972 - 2002 (さくら、沖縄マンダラ、長崎マン

ダラ、京まんだら、インターフェイス、曼陀羅ノインターフェイス、計
6回)(小企画展として4階常設展示場で開催)

目標入場者数：5万5千人

「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展」

期間：平成15年5月20日(火)～6月29日(日)(36日間)

共催：韓国国立中央博物館、朝日新聞社、NHK京都放送局、NHKき
んきメディアプラン

目標入場者数：5万5千人

「自作との対話 横尾忠則による横尾忠則展 - イメージ創造の原点を探
る」

期間：平成15年7月8日(火)～8月17日(日)(36日間)

目標入場者数：1万9千人

「神坂雪佳展 - 琳派の継承者・近代デザインの先駆者」

期間：平成15年8月30日(土)～10月13日(月・祝)(39日間)

共催：朝日新聞社

目標入場者数：2万1千人

「ヨハネス・イッテン展 - 造形芸術への道」

期間：平成15年10月21日(火)～11月30日(日)(36日間)

共催：東京国立近代美術館

目標入場者数：1万1千人

「デカダンから光明へ 異端画家・秦テルヲの軌跡 - そして竹久夢二・
野長瀬晩花・戸張孤雁...」展

期間：平成15年12月9日(火)～平成16年1月25日(日)
(33日間)

共催：日本経済新聞社

目標入場者数：2万人

「京都国立近代美術館所蔵 洋画名品展」(仮称)

期間：平成16年2月3日(火)～3月7日(日)(30日間)

目標入場者数：1万人

「堀内正和遺作展」

期間：平成16年3月13日(土)～4月18日(日)

(32日間(うち平成15年度16日間))

目標入場者数：1万人(うち平成15年度内4千人)

「ライトブラック - オーストラリア現代クラフトの新動向」展

(小企画展として4階常設展示場で開催)

期間：平成15年9月9日(火)～10月13日(月・祝)(31日間)

目標入場者数：5千人

常設展「近代の美術・工芸・写真」(305日間)10回陳列替え

目標入場者数：12万6千人

目標入場者数計：34万3千人

(国立西洋美術館)

「織りだされた絵画」

期間：平成15年3月18日(火)～5月25日(日)

(60日間(うち平成15年度48日間))

目標入場者数：5万7千人(うち平成15年度中は、4万6千人。)

「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景素描」

期間：平成15年6月24日(火)～8月24日(日)(54日間)

目標入場者数：4万1千人

「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」

期間：平成15年9月13日(土)～12月14日(日)(80日間)

共催：日本放送協会

目標入場者数：22万4千人

「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻展」(仮称)

期間：平成16年3月2日(火)～5月30日(日)

(78日間(うち平成15年度26日間))(予定)

共催：日本放送協会

目標入場者数：20万2千人(うち平成15年度中は、6万7千人。)

常設展「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」「近・現代絵画と彫刻」

「ヨーロッパ版画」

目標入場者数：17万3千人

目標入場者数計：55万1千人

(国立国際美術館)

「嶋剛 もう一つの眼差し」

期間：平成15年4月3日(木)～5月18日(日)(41日間)

目標入場者数：4千人

「高柳恵里」

期間：平成15年5月29日(木)～7月21日(月)(47日間)

目標入場者数：4千5百人

「ヤノベケンジ MEGALOMANIA」

期間：平成15年8月2日(土)～9月23日(火)(46日間)

目標入場者数：6千人

「大地の芸術 クレイワーク新世紀」

期間：平成15年10月9日(木)～11月25日(火)(42日間)

目標入場者数：8千5百人

「川崎清 美術館建築とその周辺」

期間：平成15年12月4日(木)～平成16年1月18日(日)
(33日間)

目標入場者数：5千人

常設展「現代世界の美術」 3回陳列替え

目標入場者数：3万人

目標入場者数計：3万人

(2) 全国の公私立美術館等と連携して、次の地方巡回展及び優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

国立美術館巡回展

ア.「国立美術館巡回展」

期間：平成16年2月14日(土)～3月14日(日)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

国立美術館担当館：東京国立近代美術館

イ.「国立美術館巡回展」

期間：平成16年1月2日(金)～2月1日(日)

会場：鹿児島市立美術館

国立美術館担当館：京都国立近代美術館

各館の巡回展

ア. 京都国立近代美術館巡回展

a.「京都国立近代美術館日本画巡回展」(仮称)

期間：平成15年4月12日(土)～5月11日(日)

会場：山形美術館

b.「京都国立近代美術館日本画巡回展」(仮称)

期間：平成15年6月7日(土)～7月13日(日)

会場：秋田県立美術館

c.「京都国立近代美術館洋画巡回展」(仮称)

期間：平成15年8月7日(木)～9月7日(日)

会場：高岡市立美術館

d.「京都国立近代美術館日本画巡回展」(仮称)

期間：平成15年9月13日(土)～10月13日(月・祝)

会場：弘前市立博物館

e.「京都国立近代美術館日本画巡回展」(仮称)

期間：平成15年11月7日(金)～12月7日(日)

会場：盛岡市民文化ホール

優秀映画鑑賞推進事業(東京国立近代美術館)

<フィルムセンター>

期間：平成15年7月1日(火)～平成16年3月31日(水)

会場：全国130会場以上

- (3) 各館で行う展覧会については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入場者数の状況等を踏まえて入場者数について目標を設定し、その達成に努める。
- (4) それぞれの館の収蔵品について、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。
- (5) 入場者に対するアンケート調査を実施し、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会等に反映させる。

3 調査研究

(1) 中期計画に基づき、次の調査研究を計画的に実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

「日本文化の多重構造 - 近代日本美術に見る多文化的要素の系譜」(科学研究費)

昭和10年代の洋画にみられる“地平線”の意味と、その浪漫主義的傾向についての調査研究

国吉康雄に関する研究(愛知県美術館との共同研究)

ブラジルの近現代美術に関する調査研究

明治時代の工芸概念の胚胎と変遷研究のための資料調査

現代木工と家具制作の特質に関する調査研究

工芸制作における図案と実作について

戦後プロダクトデザインの成立と展開についての調査研究

<フィルムセンター>

国内の日本映画の所在調査

映画文化に関する国際交流

国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)が実施する映画保存等に関する調査研究プロジェクトに参加するとともに、会員間のネットワーク

を活用して、映画保存及び復元等に関する調査研究を行う。

(京都国立近代美術館)

ドイツ工作連盟に関する調査研究

韓国国立中央博物館所蔵の近代日本美術品についての同館との共同研究

神坂雪佳の総合的研究 (アメリカ・バーミングハム美術館との共同研究)

横尾忠則の総合的研究

中央アジアの染織を中心とする工芸の調査研究

秦テルヲの総合的研究 (笠岡市立竹喬美術館との共同研究)

ヨハネス・イッテンに関する調査研究 (スイス・ベルン美術館との共同研究)

堀内正和に関する調査研究 (神奈川県立近代美術館との共同研究)

オーストラリア現代工芸に関する調査研究

東松照明に関する調査研究

他の美術館等における調査研究に対する協力

(国立西洋美術館)

旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究

西洋美術作品の保存修復に関する調査研究

美術館教育に関する調査研究

美術館情報資料に関する調査研究

展覧会に関わる調査研究 (17、18 世紀フランス、フランドル・タピスリーの研究。ドイツ・ロマン主義の研究。レンブラントと 17 世紀オランダ物語画の研究。18 世紀における「古代の受容」に関する研究。)

「16～17 世紀西欧における版画出版と古代の受容」(平成 15 年度科学研究費申請中)

(国立国際美術館)

日本の現代美術に関する調査研究

海外の現代美術に関する調査研究

クレイワークに関する調査研究

嶋剛に関する調査研究

高柳恵里に関する調査研究

ヤノベケンジに関する調査研究

川崎清に関する調査研究

(2) 客員研究員を招聘し、調査研究活動を推進する。

東京国立近代美術館工芸館において 1 名を招聘し、次の活動を行う。

ア．普及広報活動のあり方の調査研究

イ．作品に触れる鑑賞教室と展示解説を中心としたボランティア活動の調査研究

東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて3名を招聘し、次の活動を行う。

ア．所蔵映画フィルムの総合的なデータ分析とカタログ及び目録作成

イ．所蔵映画関係資料に関するデータ構築及び総合的な研究調査と書誌作成

ウ．外国映画に関する事業等の企画の共同研究

国立西洋美術館において7名を招聘し、次の活動を行う。

ア．美術館教育に関する調査研究

イ．西洋美術作品の保存に関する調査研究

ウ．情報、広報事業等に関する指導・助言

エ．展覧会に関する調査研究

国立国際美術館において1名を招聘し、次の活動を行う。

ア．紙支持体作品の保存に関する調査研究

イ．現代美術作品の保存に関する調査研究

(3) 大学院との連携協力

国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して西洋美術に関する人材を教育する。

(4) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって公表する。

4 教育普及

(1) 国内外の美術館等と図書を交換することにより、資料の積極的収集を図る。

(2) 広く公衆のニーズに応えるため、収蔵作品のデータベース化を推進する。

(3) 情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等による入場者サービスに努める。

(4) 児童生徒を対象とした次の教育普及事業を実施する。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

小・中・高校からの要請による見学（ギャラリー・トーク他）の受け入れ。

ホームページ内の「こどものページ」の掲載作品数の拡充。
工芸館において、近代工芸の名作展ワークショップを実施。
工芸館において、小中学生を対象とした鑑賞ワークシートの作成。

<フィルムセンター>

「こども映画館：2003年夏休み」

期間：平成15年7月29日（火）～8月3日（日）（6日間）

「こども映画館：2004年春休み」

期間：平成16年3月23日（火）～3月28日（日）（6日間）

フィルムセンター相模原分館において、「小・中学生向け上映会」を実施。
（5回）

（京都国立近代美術館）

子どものためのワークショップ

中学生の就業体験

（国立西洋美術館）

子どもから楽しめる美術展の開催

Fun with Collection「ココロのマド - 絵のかたち」

期間：平成15年7月1日（火）～8月31日（日）（54日間）

先生（小・中学校教員）のためのプログラム

（国立国際美術館）

子どものためのワークショップ 4回

ビデオ上映 3回

（5）次の講演会等を実施する。

（東京国立近代美術館）

<本館・工芸館>（展覧会名称は、仮称を含む。）

「青木繁 - 近代日本のロマンティズム」展に因む講演会 3回

「地平線の海」展に関する講演会（1回）、ギャラリー・トーク 4回

「越境のレッスン」展に関するギャラリー・トーク 3回

「ヨハネス・イッテン」展に関する講演会 1回

連続講座1回 3回構成

ガイドスタッフ（ボランティア）による、本館常設展示のギャラリー・トーク（5月中を目途に導入する。）

特集展示「牛腸茂雄」展に関するギャラリー・トーク 2回

「現代の木工家具」展に関するギャラリー・トーク 4回

「今日の人形芸術」展に関するギャラリー・トーク 5回

特集展示「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」に関するギャラ

- リー・トーク 2回
- 工芸館所蔵品展に関するギャラリー・トーク 12回
- <フィルムセンター>
 - 「カール・ドライヤー監督特集」に関する講演会 1回
 - 「小津安二郎監督」に関するシンポジウム 1回
- (京都国立近代美術館)
 - 企画展における講演会 各1～2回
 - 国内外の大学等との協力によるシンポジウム 1回
- (国立西洋美術館)
 - 企画展における講演会 各2～3回
 - スライドトーク等の実施 各企画展3～5回
 - イヤホンガイドの実施
 - 展覧会に関連する音楽プログラム 1回
 - 国内外のレンブラント研究者並びに、17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」 1回
- (国立国際美術館)
 - 講演会 4回
 - ギャラリー・トーク 5回
 - 上映会 2回
 - ビデオ上映 4回
- (6) 美術館関係者等を対象とした、次の研修事業を実施する。
 - キュレーター実務研修
 - 映画製作専門家養成講座
 - 国立西洋美術館及び国立国際美術館においては、インターンシップを実施する。
- (7) 他の機関が実施する次の研修への協力を実施する。
 - 国立西洋美術館においては、文化庁と共催により「美術館・歴史博物館学芸員専門研修会」を実施する。
 - 大学生の学芸員資格取得のための博物館実習
- (8) 研究成果を踏まえて、次の出版事業等を行う。
 - (東京国立近代美術館)
 - 「平成14年度年報」

「東京国立近代美術館概要」

「東京国立近代美術館研究紀要」

展覧会、講演、企画上映に伴う図録等の刊行物の発行

「現代の眼」 6回発行

展覧会案内（カレンダー） 1回発行

「NFC ニュースレター」 6回発行

「NFC カレンダー」 企画毎発行

（京都国立近代美術館）

「平成14年度年報」

「京都国立近代美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

美術館ニュース「視る」 6回発行

「京都国立近代美術館所蔵名品集 [洋画]」 1回発行

展覧会カレンダー 3回発行

（国立西洋美術館）

「国立西洋美術館年報No. 37」

「国立西洋美術館研究紀要No. 8」

「国立西洋美術館要覧」

展覧会に伴う図録の発行

展覧会に伴う小中学生向け解説パンフレット「ジュニアパスポート」の発行

「国立西洋美術館ニュース（展示予定表掲載）」 4回発行

「子ども用美術館ガイド」（仮称）

（国立国際美術館）

「平成14年度年報」

「国立国際美術館概要」

展覧会に伴う図録の発行

展覧会に伴うリーフレットの発行

「ジュニアガイドブック」 1回発行

「月報」 12回発行

展覧会案内 1回発行

（9）法人のホームページ及びそれぞれの館のホームページを積極的に活用して、広く公衆への普及及び広報を行う。

（10）ボランティア導入のための作業を進める。

東京国立近代美術館本館においてはボランティアの受け入れを図り、5

月を目途として活動を開始する。

東京国立近代美術館工芸館においては、ボランティア受け入れの準備を進める。

京都国立近代美術館においては、「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」を主催する京都市教育委員会等と連携し、ボランティア受け入れについて引き続き検討を進め、導入を試行する。

国立西洋美術館においては、ボランティア受け入れについて検討を進める。

国立国際美術館においては、ボランティアを受け入れる。

(11) 企業との連携等について検討を行う。

企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物への展覧会情報の掲載等、企業との連携を進める。

(12) 他の機関が実施する次の事業への参加及び協力を実施する。

(東京国立近代美術館<本館・工芸館>・国立西洋美術館)

東京の美術館・博物館等33館で実施する共通入館券実行委員会に参加する。

東京都が実施する外国人旅行者への観光事業に参加し、外国人旅行者に対して常設展の割引を行うことにより、我が国の近代美術の振興と普及広報を図る。

(東京国立近代美術館)

<本館・工芸館>

千代田区が実施する江戸開府400年事業に参加する。

<フィルムセンター>

文化庁が実施する優秀映画賞選考会に協力する。

文化庁芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会」に協力する。

海外で行われる国際映画祭のコンペティション(審査)部門へ日本映画の近作に英語字幕を付して出品する。

(13) 映画フィルム検索システムの構築を図る。

5 新たな美術館施設の円滑な運営について

(国立国際美術館)

(1) 平成16年秋の新館移転に向けた準備作業のため、平成16年1月を目途に休館する。

(2) 開館に向けて設備備品の充実を図る。

6 新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の設置準備

文化庁が平成18年を目途に開設を予定している新国立美術展示施設（ナショナル・ギャラリー）（仮称）について設立準備室を設置し、文化庁と連携してその円滑な開設に向けた体制整備、展示事業等の準備を推進する。

7 その他の入館者サービス

- (1) 引き続きバリアフリー化、車椅子の提供等入館者サービスに努める。
- (2) 展示説明の見直しなど、鑑賞環境の充実に努める。また、作品リストの無料配布等を行う。
- (3) 東京国立近代美術館工芸館においては、鑑賞カードの無料配布を行う。
- (4) 引き続き小・中学生の常設展示料金の無料化を継続する。
共催展についても共催者の了解の得られたものは同様とする。
- (5) 東京国立近代美術館本館においては「青木繁と近代日本のロマンティズム展」開催期間中の休館日である4月28日を臨時に開館し、ゴールデンウィーク中の入場者サービスの向上に努める。
- (6) 国立国際美術館においては「嶋剛 もう一つの眼差し」開催期間中の休館日である4月30日（水）を臨時に開館し、ゴールデンウィーク中の入場者サービスの向上に努める。
- (7) 東京国立近代美術館本館及び工芸館においては、年末年始の休館日を12月29日から1月1日に短縮し、年末年始の入場者サービスの向上に努める。
- (8) 東京国立近代美術館フィルムセンターにおいては、引き続き平日夜の上映開始時間を30分繰り下げ、午後7時からとする。
- (9) 国立西洋美術館においては、企画展「ドレスデン版画素描館所蔵ドイツ・ロマン主義の風景素描」開催に際し、割引券を作成・発行して入場料金の減免を行い、入場者サービスの向上に努める。
- (10) 引き続きフリーゾーンの活用、レストラン及びミュージアムショップを生かしたサービスの充実に努める。
- (11) 京都国立近代美術館においては、友の会制度を導入する。
- (12) 高校生の常設展示料金を見直し、減免を実施する。

予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

2 収支計画

別紙のとおり。

3 資金計画

別紙のとおり。

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

職員の研修計画

職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

1) 新規採用者・転任者職員研修

2) 接遇研修

外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。

2 施設・設備に関する計画

施設・設備の整備を計画的に推進する。

1 予算(年度計画の予算)

平成15年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	4,622
施設整備費補助金	0
展示事業収入	307
計	4,929
支 出	
運営事業費	4,929
人件費	1,129
業務経費	3,800
うち一般管理費	1,014
うち展覧事業費	2,060
うち調査研究事業費	262
うち教育普及事業費	410
うち新国立美術展示施設(ナショナル・ ギャラリー)(仮称)設立等準備事業費	54
施設整備費	0
計	4,929

〔運営費交付金の算定ルール〕

1) 人件費

毎事業年度の人件費(P)については、以下の数式により決定する。

$$P(y) = P(y-1) \times (\text{係数})$$

P(y) : 当該事業年度における人件費。P(y-1)は直前の事業年度におけるP(y)。

：人件費調整係数。各事業年度予算編成過程において、給与昇給率等を勘案し、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

注) 当該法人における退職手当及び公務災害補償費については、役員退職手当支給基準、国家公務員退職手当法及び国家公務員災害補償法に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

2) 業務経費

毎事業年度の業務経費(R)については、以下の数式により決定する。

$$R(y) = (R(y-1) - (y-1)) \times (\text{係数}) \times (\text{係数}) + (y)$$

R(y) : 当該事業年度における業務経費。R(y-1)は直前の事業年度におけるR(y)。

(y) : 特殊業務経費。新規施設の整備・竣工、政府主導(ミレニアム 特別枠、日本新生特別枠等)による重点施策の実施、法令改正に伴い必要となる措置、事故の発生等の事由により時限的に発生する経費であって、運営費交付金算定ルールに影響を与える規模の経費。各事業年度の予算編成過程において、当該経費を具体的に決定。

(y-1)は直前の事業年度における (y)。

：消費者物価指数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

：業務政策係数。自己収入に係る支出を勘案し、また、事業の進展により必要経費が大幅に変わることを勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

3) 自己収入

毎事業年度の自己収入(受託研究を除く。)(E)の見積り額については、以下の数式により決定する。

$$E(y) = E(y-1) \times (\text{係数})$$

E(y) : 当該事業年度における自己収入の見積り額。E(y-1)は直前の事業年度におけるE(y)。

：収入政策係数。過去の実績を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

4) 運営費交付金

毎事業年度に交付する運営費交付金(A)については、以下の数式により決定する。

$$A(y) = \{P(y) + (R(y) - (y))\} \times (\text{係数}) + (y) - E(y) + (\text{係数})$$

A(y) : 当該事業年度における運営費交付金。

：効率化係数。各府省の国家公務員について10年間で少なくとも10%の計画的削減を行うこととされている観点から業務の効率化等を勘案して、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な数値を決定。

：収入調整係数。過去の実績における自己収入に対する収益の割合を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

上記の算定ルールに基づき、一定の仮定の下に中期計画期間中の予算を試算。

- ・人件費の見積りについては、(：人件費調整係数)を1.0%として試算。
- ・業務経費については、(：消費者物価指数)は勘案せず、(：業務政策係数)を機械的に一律4.0%として試算。
- ・自己収入については、(：収入政策係数)を機械的に一律1.0%として試算。
- ・(：効率化係数)については、1.0%として試算。
- ・(：収入調整係数)については、一律1として試算。

2 収支計画

平成15年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	4,941
經常経費	4,941
人件費	1,129
業務経費	3,776
うち一般管理費	990
うち展覧事業費	2,060
うち調査研究事業費	262
うち教育普及事業費	410
うち新国立美術展示施設(ナショナル・ ギャラリー)(仮称)設立等準備事業費	54
減価償却費	36
収益の部	4,941
運営費交付金収益	4,598
展示事業等の収入	307
資産見返運営費交付金戻入	13
資産見返物品受贈額戻入	23

3 資金計画

平成15年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	4,929
業務活動による支出	4,905
投資活動による支出	24
資金収入	4,929
業務活動による収入	4,929
運営費交付金による収入	4,622
展示事業等による収入	307
投資活動による収入	0
施設整備費補助金による収入	0